

視察報告書

委員会名	市民福祉常任委員会
視察日時	令和 元年 11 月 7 日 (木) 13 時 30 分～ 15 時 00 分
視察先	富山県射水市
視察項目	キッズポートいみず、子育て支援施策、ちやいるドットコムについて
視察参加議員	笹栗純夫、三嶋栄幸、後藤宏爾、長田秀樹、加茂正彦

視察概要

射水市の概要 面積：109.43k m² 人口： 92, 935 人 世帯数：35, 488 世帯

射水市は平成 17 年度（合併時）に未就学児までの医療費の助成をし、段階的に助成年齢を拡大し、平成 22 年度には中学 3 年生まで、そして平成 29 年 4 月から富山県の呉西 6 市（小矢部市、南砺市など）に、平成 31 年 4 月からそれ以外の地域にも利用を拡大するなどしている。また、平成 19 年 6 月 20 日に「射水市子ども条例」を制定し、子どもの幸せと健やかな成長を図る社会の実現を目指しており、社会全体が愛情を持って子育てができる環境作りをしている。平成 29 年 4 月 3 日には射水市立子育て支援センターを、旧大門町庁舎を改修して開設し、妊娠・出産・育児・就学などのニーズに応じた支援を行っている。射水市の子育て支援センター「キッズポートいみず」を視察し、子育て支援施策、子ども虐待対策について学ぶ。

I 射水市子ども子育て総合支援センター（キッズポートいみず）について

① 概要

平成 29 年 4 月 3 日、越中大門駅から徒歩で 15 分の所にある旧大門町庁舎を改修して開設
利用日時：月～土（日・祝日、年末年始を除く）9 時半～16 時 30 分

1 階には子どもの悩み相談室を月曜から金曜の 9 時から 17 時まで行っており、4 人の相談員がローテーションで対応し、子育てに関する悩みや不安などの子どもに関する様々な悩みについて相談に応じている。また、メール、電話、f a x などでの相談にも応じている。

2 階に子育て支援センターを月曜から土曜の 9 時 30 分から 16 時 30 分まで開所し、子育て中の親子の触れ合い、交流の場として親子で楽しめるいろいろなイベントや育児講座を開催し、子育て相談や子育て情報を提供している。

職員体制：

1 階 子ども悩み相談室 相談員 4 名（ローテーションで対応）

大門児童館（運動、学習、交流などの子どもの遊び場） 職員 2 名

地区センター（地区窓口業務） 職員 2 名、臨時職員 1 名

2 階 子育て支援センター（キッズポートいみず）

保育士 5 名（そのうち 1 名はセンター所長を兼務）

3 階には幼児言葉の教室、子どもの発達相談室、母子総合相談室が開設されている。

発達障害の子どもの親の相談に対応したりしている

保健士 3 名、保育士 6 名（この建物全体の館長を 1 名配置している）

活動に対する予算措置：事業費及び財源内訳 294, 095 千円

国庫支出金（次世代型支援対策施設整備交付金）	18,462千円
県支出金（児童館整備事業補助金）	10,872千円
繰入金（特定目的基金繰入金）	45,000千円
市債（合併特例事業債）	199,900千円
一般財源	19,861千円

② 取り組み

平成31年2月に射水市子ども子育て総合支援センターの1階にベビーケアルーム「m a r o」を供用開始し、おむつ替えや授乳できるスペースを確保し、子育て世代の親が安心して利用できるセンターになっている。いみずママベビサポートとして、母子総合相談室が担っている施策は、妊娠時から保健師、助産師による面接などで、悩みや妊娠時の不安に寄り添い妊婦さんの産前産後のサポートに努め、きめ細やかな支援ができるようになっている。

子どもへの虐待防止などへの対策では、10月から11月にかけて小学校就学健診が行われている時に、「子育て井戸端会議」を実施し、家庭教育アドバイザーがグループワークの進行をし、就学前の保護者の悩みや不安を共有する場を作ったり、富山県が実施している「親学び講座」や「親学びノート」を活用したりして、保護者の悩みを共有する場を作ったりして、親へのケアをしている。現在、家庭教育アドバイザーは59名おり、家庭教育力向上と活性化を図っている。また、アドバイザーの資質向上のため家庭教育に関する学習機会の提供やスキルアップ研修会等を開催し、アドバイザーの育成を支援するなどし、親の子育てをバックアップしている。

平成30年度の射水市子ども子育て総合支援センターの1年間を通しての来場者数

1階	大門児童館	10,070人	
	子どもの悩み総合相談室		(215件)
2階	子育て支援センター	28,308人	
3階	幼児ことばの教室	820人	(283件)
	母子総合相談室		(265件)
	子ども発達相談室	635人	(323件)

③ 課題・問題点

1. 子育て支援のための職員の人材育成と確保が課題
2. 子育て支援に対する職員は地区に合わせて行われており、子育て支援課は23名いるが、保育士の確保については、やはり厳しい状況にあるとのこと。

視察に行った際にも、子どもを連れた若い親の利用が多く、また、子どもの発達に応じた対応がなされているのを見て取れた。幼児ことばの教室では、2020年から言語聴覚士を採用し、常勤体制で、子どもの成長を支援しようと模索している。

本市にとって活用すべき事項や課題

射水市の場合は子どもの居場所と同時に親の居場所も確保されているのが印象深かった。産前産後のケアも職員が寄り添っての対応は糸島市にも参考になる。そのためには子どもの居場所と親の居場所を同時に創設することが必要ではないだろうか。